

令和6年度第2回 茨城県央地域ウェルネス推進協議会 次第

日時：令和7年2月20日（木）午前10時から

場所：水戸市役所 本庁舎4階 政策会議室

1 開 会

2 議 題

(1) 令和6年度の社会実験 実施報告

(2) 令和7年度の社会実験について

3 その他

4 閉 会

【配付資料】

- ・ 次第
- ・ 委員名簿
- ・ 茨城県央地域ウェルネス推進協議会設置要項
- ・ 資料1 令和6年度の社会実験 実施報告
- ・ 参考資料 「Care Show Japan 2025」チラシ抜粋
- ・ 意見書

令和6年度第2回 茨城県央地域ウエルネス推進協議会 委員名簿

令和7年2月20日

1 委員 (順不同 敬称略)

	氏 名	所 属	備 考
1	上 地 勝	茨城大学 教育学部教授	
2	坂間 伊津美	常磐大学 看護学部長	
3	篠田 多介志	茨城県国民健康保険団体連合会 事務局長	
4	金澤 秀房	茨城県総合健診協会 理事兼事務局長	
5	青木 かを里	水戸市医師会 副会長	欠席
6	田澤 重伸	水戸市歯科医師会 会長	
7	今井 章人	水戸薬剤師会 会長	欠席
8	中村 友美	水戸商工会議所女性会 副会長	
9	多田 厚史	水戸市社会福祉協議会 事務局長	
10	島 川 清	笠間薬剤師会 会長	欠席
11	飛田 和明	ひたちなか商工会議所 事務局次長	
12	黒澤 春美	ひたちなか市食生活改善推進員協議会 会長	
13	稲川 敏夫	那珂市スポーツ推進委員会 委員長	
14	大曾根 光江	小美玉市食生活改善推進協議会 会長	
15	高 林 修	茨城町ウオーキングの会 前会長 (日本ウオーキング協会公認指導員)	
16	大川 きみ子	大洗町食生活改善推進員連絡会 会長	
17	高嶋 はるえ	城里町食生活改善推進員協議会 会長	
18	佐藤 栄子	東海村健康づくり計画推進委員会 委員長	

任期：令和6年12月1日～令和8年11月30日

2 事務局（水戸市）

役職名	氏 名	役職名	氏 名
保健医療部長	小川 佐栄子	健康増進係長	福田 淳子
健康づくり課長	堀江 博之	保健政策係長	昆 節 夫
技正兼課長補佐	高安 克子	主 幹	西山 拓海
課長補佐	春日 剛		

3 関係市町村

市町村名	課名	役職名	氏 名
笠間市	健康医療政策課	課長補佐	青木 美穂子
		主 査	浦井 義朗
ひたちなか市	健康推進課	技佐兼係長	佐藤 由季
那珂市	健康推進課	課 長	玉川 祐美子
		課長補佐	飛田 健
小美玉市	健康増進課	課 長	太田 由美江
茨城町	健康増進課	課 長	大信 雅一
		技 師	綿引 勇太
大洗町	健康増進課	課 長	本城 正幸
城里町	健康福祉課	課長補佐	木村 和恵
東海村	健康増進課	課 長	佐藤 重雄

茨城県央地域ウェルネス推進協議会設置要項

(設置)

第1条 いばらき県央地域連携中枢都市圏ビジョンにより形成された圏域（以下「圏域」という。）を対象に、住民の健康づくりの意識を高めることによって、健康寿命の延伸を図るとともに、健康づくりに関わる企業との連携を強化し、圏域の住民の健康に寄与するため、茨城県央地域ウェルネス推進協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 協議会は、次の各号に掲げる事項について協議する。

- (1) ICTの活用をはじめとする健康づくりに関すること。
- (2) 健康づくりに関する官民連携社会実証事業に関すること。
- (3) 前各号に掲げるものの他、前条の目的を達成するために必要な事業。

(組織)

第3条 協議会は、次に掲げる者のうち、水戸市長が依頼する20人以内の委員をもって組織する。

- (1) 学識経験者
- (2) 医療関係団体
- (3) その他関連団体
- (4) 前号に掲げるもののほか、水戸市長が適当と認める者

(任期)

第4条 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

2 補欠により依頼された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(役員)

第5条 協議会に、次の役員を置く。

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 1名

2 会長は、協議会の会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 協議会は、会長が招集し、会長は、会議の議長となる。

2 会長は、必要に応じて委員以外の者を協議会に出席させ、意見・説明その他必要な協力を求めることができる。

(実務担当者部会)

第7条 協議会に、実施担当者部会を置く。

2 部会は、第2条に規定する所掌事項について実務レベルの検討及び調査研究等を行うものとする。

3 部会は、構成市町村の担当課長とする。

(庶務)

第8条 協議会の庶務は、水戸市保健医療部健康づくり課において行う。

(補則)

第9条 この要項に定めるもののほか、必要な事項は、別に定める。

付 則

この要項は、令和4年8月2日から施行する。

この要項は、令和6年4月1日から施行する。

令和6年度の社会実験 実施報告

令和6年度は以下の3つの社会実験を実施した。

1 茨城県央#Feel Health プロジェクト（WELL BE CHECK）の実施結果

(1) 実施概要

LINE を活用して未病状態を見える化する「WELL BE CHECK」を用いて、圏域住民の健康における行動変容ステージを明確化する。また、健康への意識と関心を高める施策を立案・実行することを目指し、住民の健康ニーズを把握する。

(2) 実施目的

- ① 特に30歳代から50歳代の働き盛り世代に対して健康づくりを働きかけるに当たり、LINEを使用した手軽なツールの有効性について検証する。
- ② 社会実験を行うに当たり、住民にどのように周知をすることが効果的か検証する。
- ③ 県央地域の行動変容ステージの分布結果から、今後の健康づくり施策をどのように進めていくかを検討する。

(3) 連携企業

株式会社WELL BE INDUSTRY（東京都渋谷区）

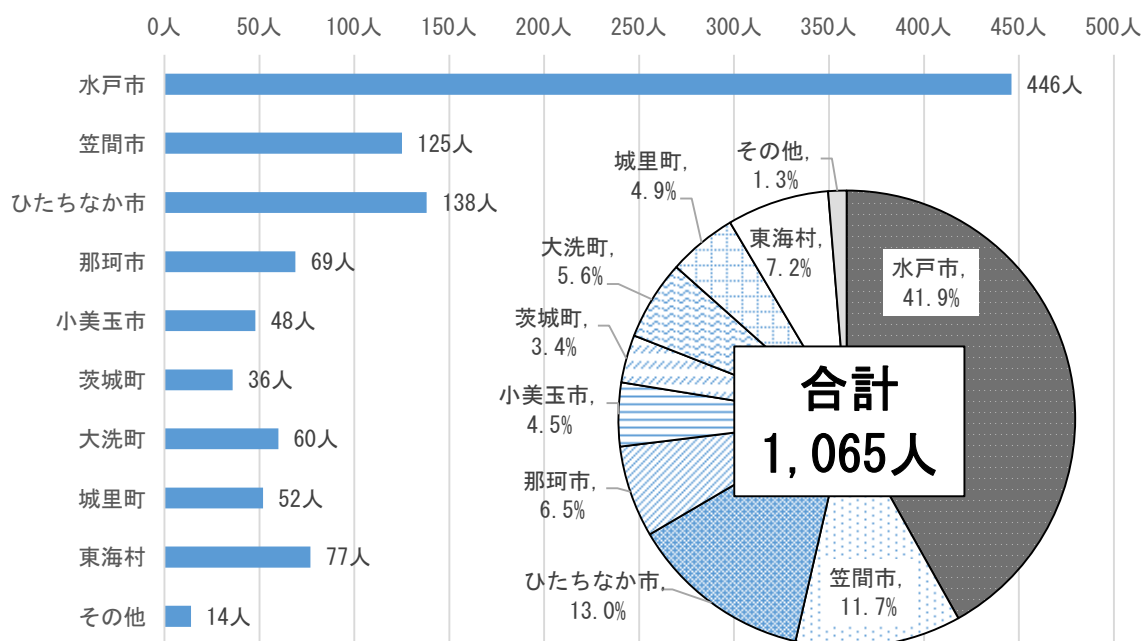
(4) 実施期間

令和6年9月9日（月）から10月31日（木）

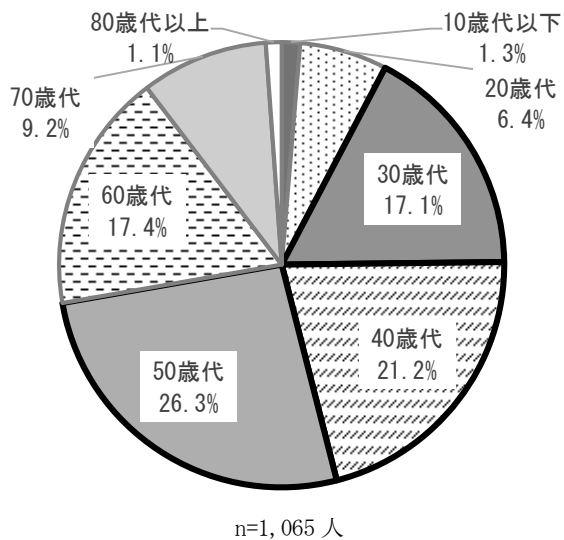
(5) 参加人数

ア 市町村別

合計 1,065 人（内訳：9市町村 1,051 人+9市町村以外 14 人）



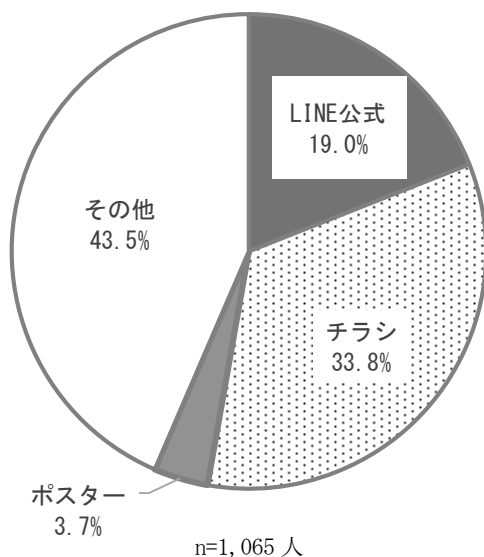
イ 年齢別



- ・ 全体のうち、メインターゲット層である30歳代～50歳代(働き盛り世代)の回答は計64.6%

ウ 参加経路

LINE 公式	自治体からの LINE による周知から
チラシ	各所で配布したチラシのQRコードから
ポスター	各施設に掲示したポスターのQRコードから
その他	上記以外から（ホームページ、各自治体内職員向けインフォメーション等）



- ・ メインで考えていた LINE の周知からは、約20%(約200人程度)の参加となった。
- ・ 「チラシ」については、主に協力企業による職場内での配布によるものと思われる。
- ・ 最も多い「その他」の内訳としては、各自治体職員が多いと思われる。

(6) 実施結果

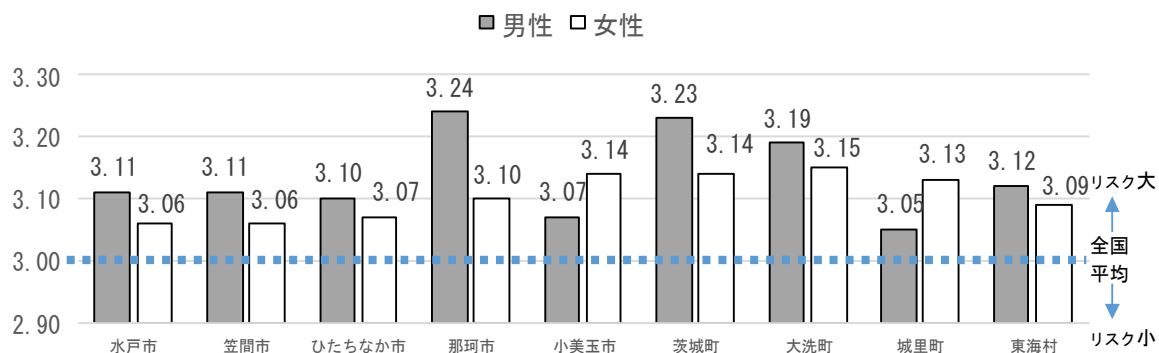
ア 周知

周知方法	回数等 (圏域全体)	備考
SNSによる発信	延べ22回	LINE, X, Facebook
広報紙に掲載	延べ6回	5市町村の広報紙
ポスター掲示	計90施設	
ポスター掲示以外で 協力いただいた企業・団体	計24施設	・ 茨城新聞への記事掲載 ・ 職員へのチラシ回覧 ・ 会報への記事掲載 等
その他各市町村で 行った周知		・ 庁舎内待合スペースのモニターに投影 ・ まちなかデジタルサイネージ広告の利用 ・ イベント会場でのポスター掲載, 来場者へのPR ・ 市内全域チラシ回覧 ・ 健診(検診)時にチラシを配布 ・ 母子保健事業(健診・相談)時にチラシを配布 ・ トレーニングルーム内トレーナーによるチラシの配布と説明 ・ 健診ネット登録者へのメールでの周知 ・ 健診通知へのチラシの同封

イ トータルスコア

WELL BE CHECK で50の設問に回答した結果算出されるスコアであり, 最大は「5」で, 数字が大きいほど未病リスクが高いとされる。

今回, 圏域の全市町村で全国平均よりもスコア値が高い(リスクが大きい) という結果であった。

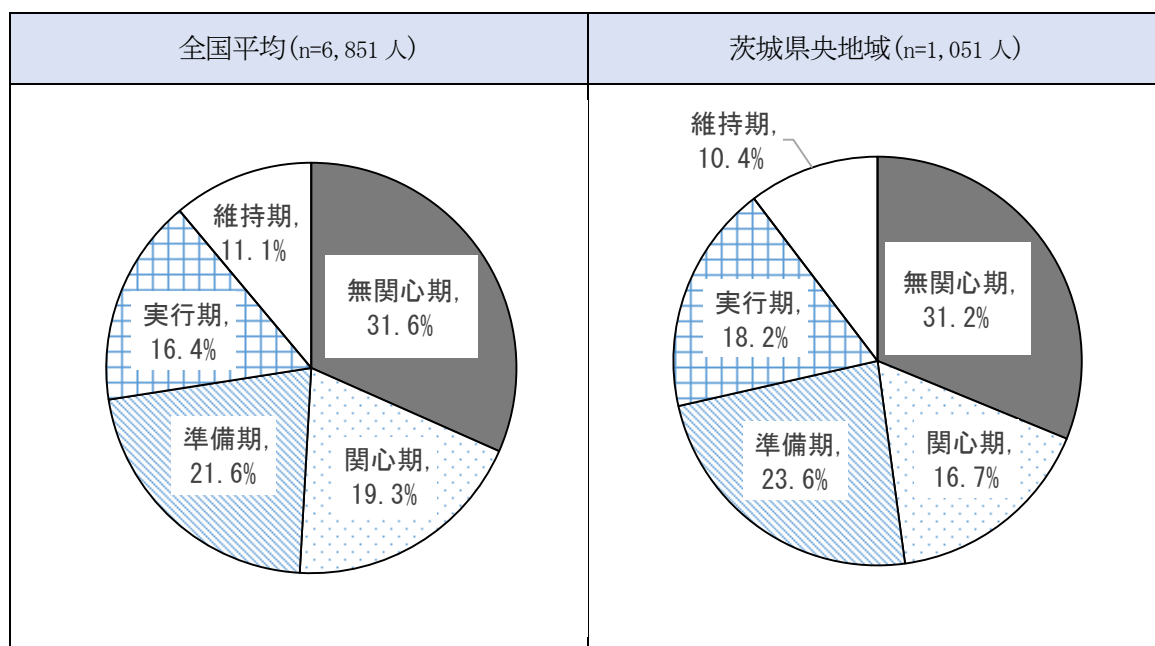


ウ 行動変容ステージの分布

健康への関心及び行動の段階を表すステージで、『無関心期→関心期→準備期→実行期→維持期』という順番で変化するもの。

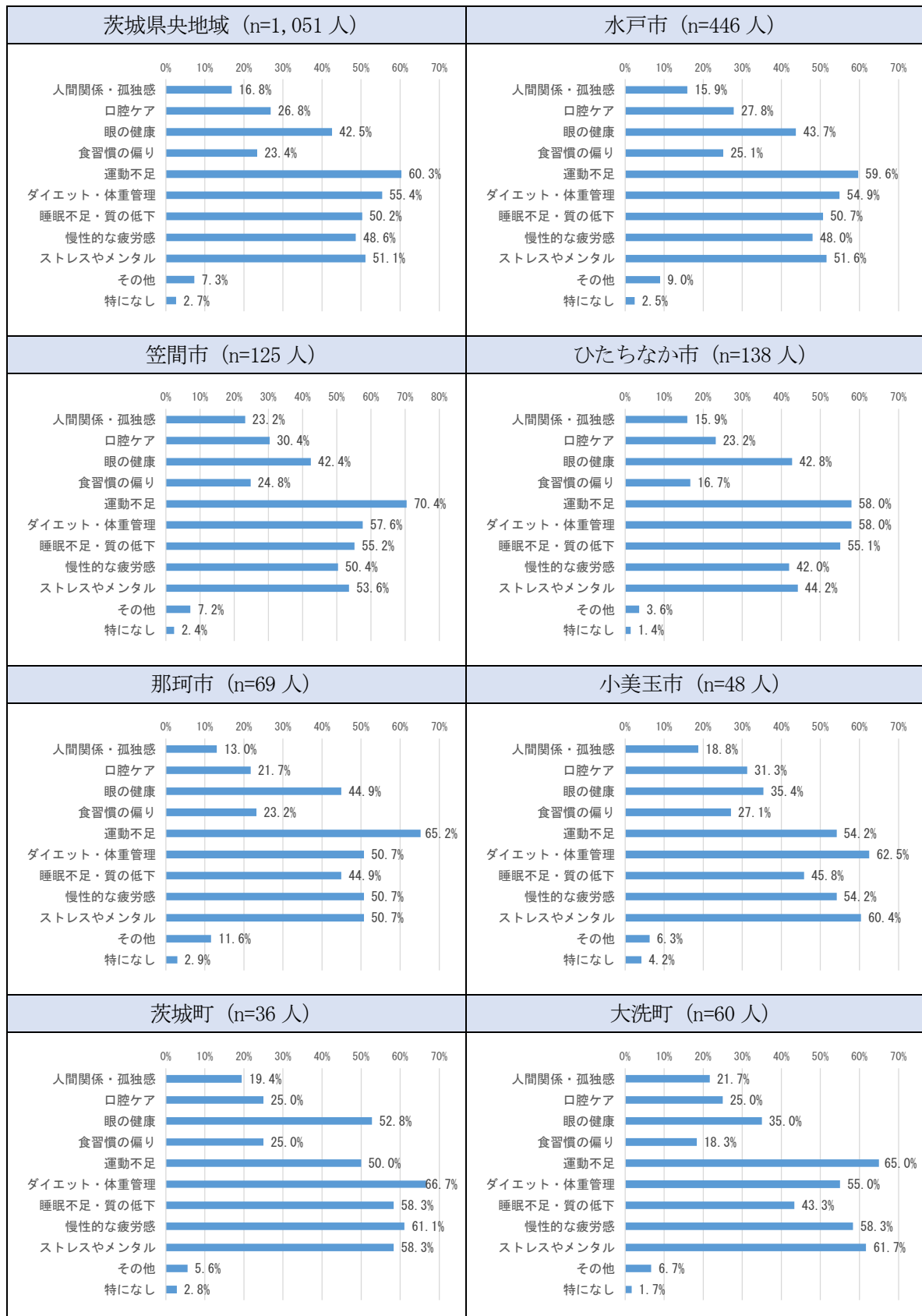
県央地域全体の行動変容ステージの分布としては、全国平均と似た結果となった。

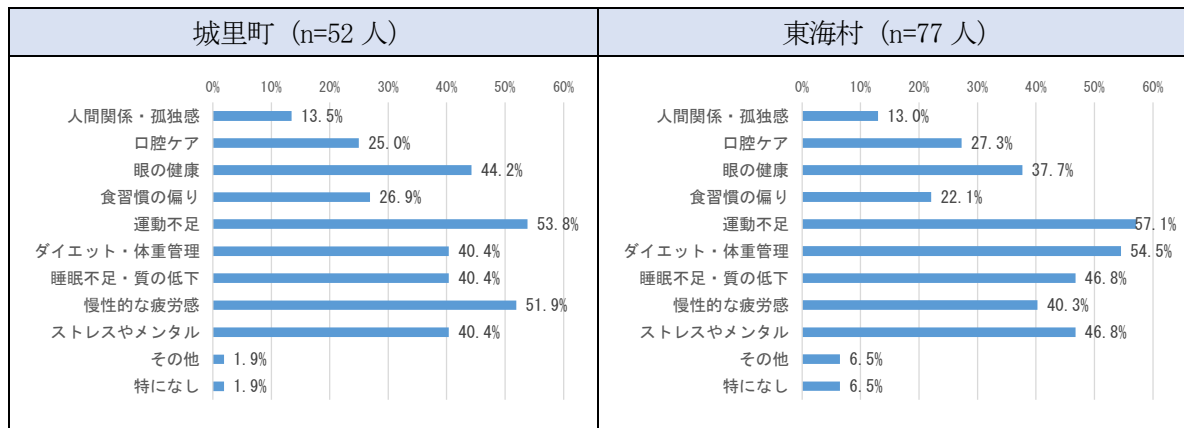
凡例	内容
無関心期	まだ健康課題に気づいていない
	恐怖訴求（肝に銘じる言葉）が必要
関心期	健康課題に気づいてはいるが、対処法がわからない
	情報支援（腹に落ちる言葉）が必要
準備期	健康課題に気づき、対処法を理解しているが、まだ実行していない
	感情介入（心にしみる言葉）が必要
実行期	健康課題に気づき、対処法も理解していて、実行しているが、その結果に満足していない
	幸せ訴求（心がはずむ言葉）が必要
維持期	健康課題に気づき、対処法も理解していて、実際に実行し、その結果に満足している



エ 健康課題

WELL BE CHECK 内のアンケートにて、改善したい健康課題として特に多く回答があったのが、「運動不足」、「ダイエット・体重管理」、「ストレスやメンタル」であった。





(7) 総括

実施目的		考察等
①	LINE の有効性	・ 30 歳代から 50 歳代の働き盛り世代の回答が 60%を超えており、今回ターゲットとする層には到達していると考えられる。 ・ 今後 LINE のように、スマートフォン 1 つあれば実施可能な健康コンテンツの提供は、ターゲット層への有効な手段の一つになると考えられる。 ・ 一方で、今回はあくまで 1 回のみの健康チェックとしての実施であり、継続的な使用が前提となる健康管理アプリに関しては、無関心期が多い今の現状では有効であるとまでは言えないと考える。
②	周知の有効性	・ メインで考えていた LINE の周知からの参加は 19%とそれほど多くはなく、協力企業や自治体職員による参加が大きな割合を占めていると想定される。 ・ 各市町村で可能な限りの周知は行ったが、多くの一般住民の参加を促すには十分でなかった。参加拡大に向けては、予算の課題はあるものの、周知以外にも景品やポイントといったインセンティブを用意するなど、周知の他に参加を後押しする手段の検討が今後必要と考える。
③	今後の方針	・ 行動変容ステージの分布について、全国と比較しても大きな違いはなく、大きく地域差があるということではないと考えられる。 ・ また、行動変容ステージの分布が明確化された結果、無関心期が 31.2%と最も多く、この層に向けて健康意識を高める取組が必要と考える。 ・ 令和 4 年度に実施した県央全体で行ったアンケートと同様に、いずれの市町村においても運動不足が課題であると認識している住民が多いことから、今後の実施テーマとして、「運動」は選択肢の一つになると考える。また、無関心層に対して、どのようなテーマで健康づくりを進めていくことが効果的であるかも、加えて検討する必要がある。 ・ 本連携事業を今後も実施する場合、通常数百万円の費用を要することから、来年度も継続して実施することは難しいものとする。なお、仮に今年度と同規模の予算で行う場合、LINE サービスのみの提供と、レポート提供が可能（ただしプロモーションに係る作業は不可）と提案を受けている。 ・ 今回の社会実験では、圏域住民の健康に関する行動変容ステージ分布の明確化などの成果があった。一方で、実施していく上での費用の課題は残った。今後はこうした分析なども踏まえながら、新たな取組を検討していく必要がある。

2 足の健康診断の実施結果

(1) 実施概要

昨年に引き続いての実施であり、医師、理学療法士、義肢装具士による足の骨格チェックとアドバイスの実施といった、足から始める「予防医療」の取組を行った。



(2) 実施目的

- ① 足の健康診断というコンテンツの需要がどれくらいあるかを検証する。
- ② 今後も別会場などで同様の内容を継続して実施することが可能か、また、有用であるかを検証する。

(3) 連携企業

株式会社ジャパンヘルスケア（東京都渋谷区）

（理学療法士1名、義肢装具士1名）

※ 協力：水戸協同病院（医師2名、理学療法士1名）

(4) 実施期間

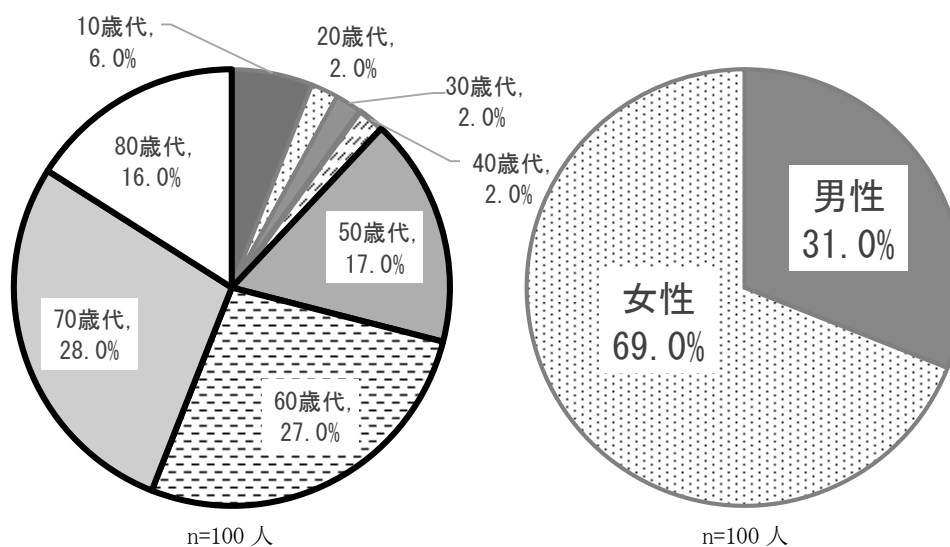
令和7年1月19日（日）（令和6年度スポーツ・健康フェスティバル内）

(5) 参加人数

合計 100 人 (※ アンケート回答者数 98 人)

ア 年齢別・性別

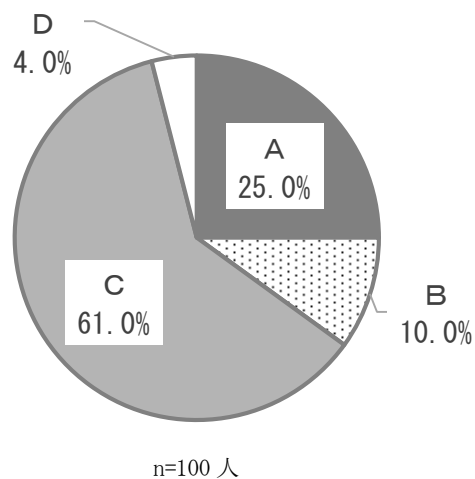
年齢別では 50 歳代以上 80 歳代以下の参加が大半を占め、性別では女性の参加が多い結果となった。



(6) 実施結果

ア 健診評価 (全体)

軽度の外反母趾の方が多く、C評価が非常に多い結果となった。



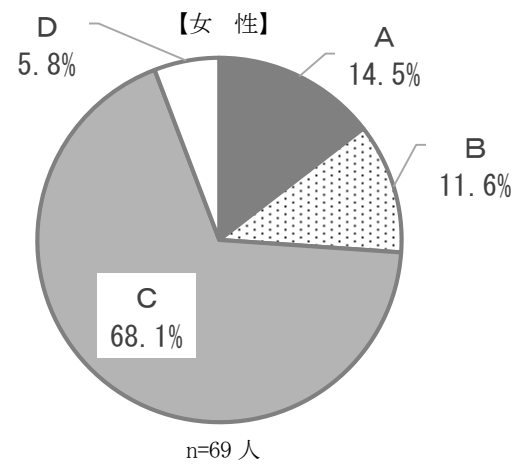
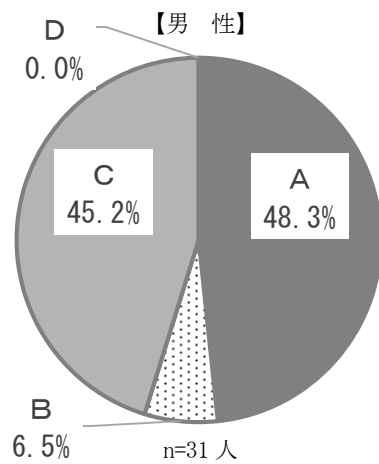
評価	目安
A	足に大きな異常はなし 定期的な健診を推奨
B	軽度の足のゆがみがある 定期的な足のケアを推奨
C	中程度の足のゆがみがある 足により靴やインソール等のケアを推奨
D	重度の足のゆがみがある 医療機関への受診を推奨

(参考) 外反母趾の経過

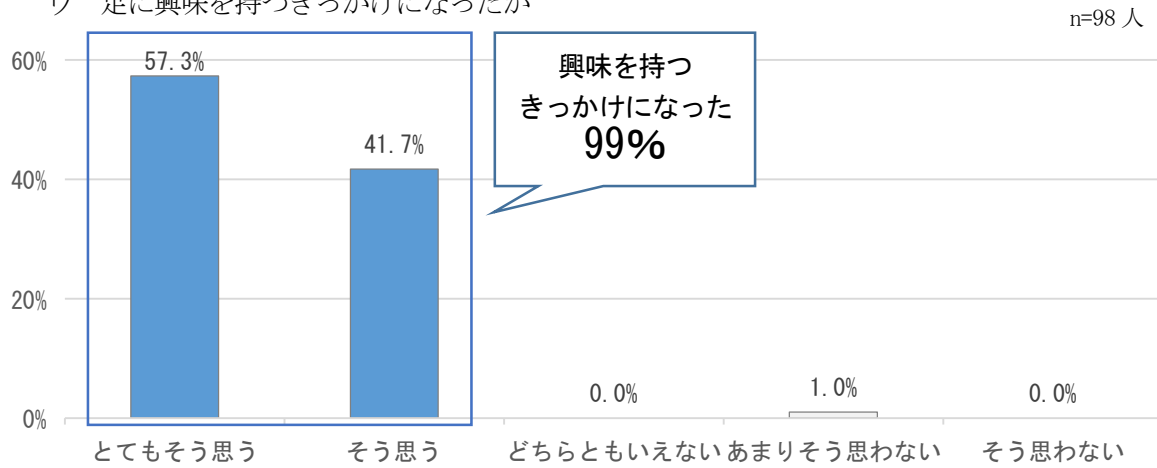


イ 健診評価（性別）

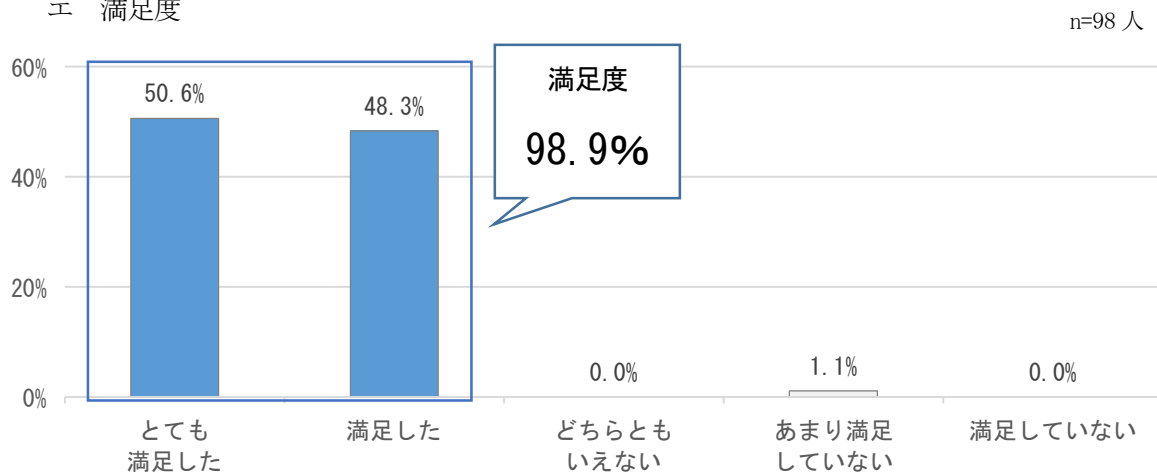
男女別で評価を見ると、男性ではC評価と同程度A評価の者もいる一方で、女性ではC評価が偏って多い結果となった。



ウ 足に興味を持つきっかけになったか



エ 満足度



(7) 総括

実施目的		考察等
①	需要の有無	・ 茨城県央#Feel Health プロジェクトほどの周知は行っていないものの、常に行列ができるほど盛況であり、コンテンツ自体の需要は高いと想定される。 ・ 足健診の結果や参加者の声から、足に悩みのある方は一定数いるものの、足の悩みを相談する機会や場所は少なく、足健診はそのような機会や場所の提供として有用である。 ・ 靴の選び方・履き方に関する声が多く、地域住民に対して需要が高いことが考えられる。
②	継続性について	・ 足健診の需要は高く、場所が用意できれば実施自体は容易であることから、今後も他の場所においても実施する意義はあると考えられる。 ・ ただし足健診は長い待ち時間が発生するなどしているため、実施面では今後工夫していく必要がある。 ・ その他ジャパンヘルスケアでは足に関する講座や、ICT を活用し、3Dデータから歩行を解析するシステムなどもあり、今後これらの利用についても検討したい。

3 A I 歯科検査

(1) 実施概要

歯と口をカメラで撮影し、A I による判定のもと、専門医と同等の検査を行い、一人ひとりに合わせた口腔ケアのアドバイスを提供する。

(2) 実施目的

- ① A I 歯科検査というコンテンツの需要がどれくらいあるかを検証する。
- ② 今後も別会場などで同様の内容を継続して実施することが可能か、また、有用であるかを検証する。

(3) 連携企業

歯っぴー株式会社（熊本県熊本市）

(4) 実施期間

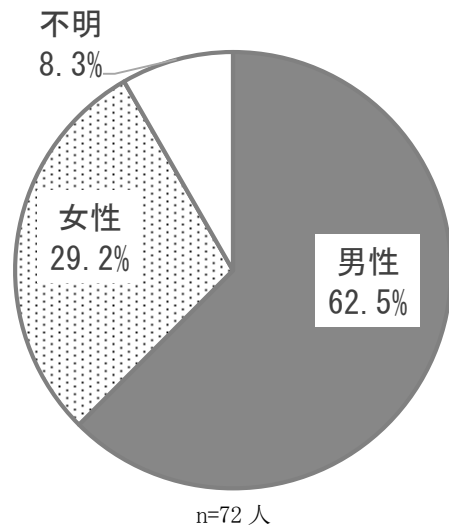
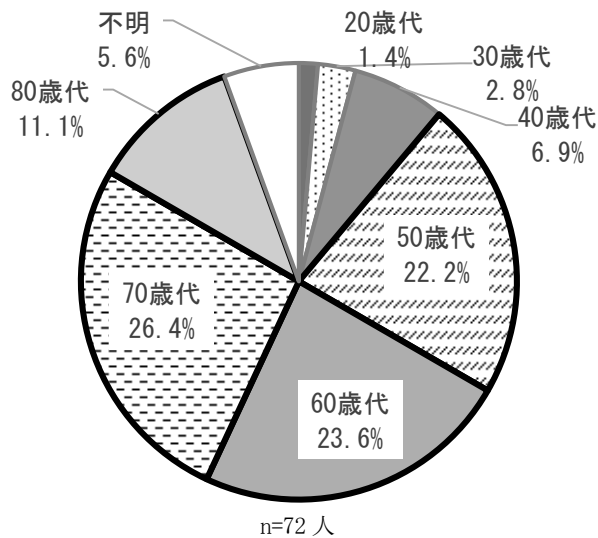
令和7年1月19日（日）（令和6年度スポーツ・健康フェスティバル内）

(5) 参加人数

合計 81 人 (※ アンケート回答者数 72 人)

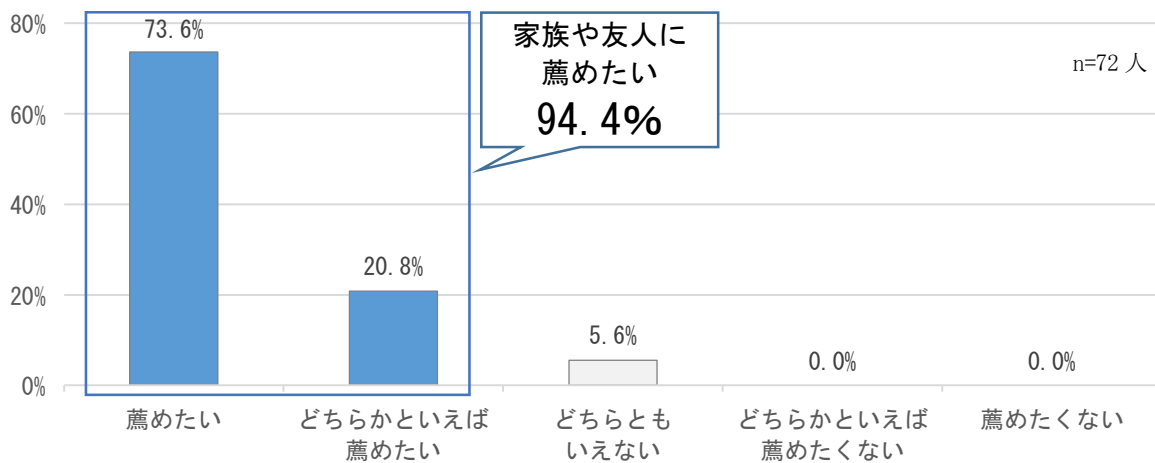
ア 年齢別・性別

年齢別では 50 歳代以上 80 歳代以下が大半を占め (83.3%)，性別では男性の方が多かった。

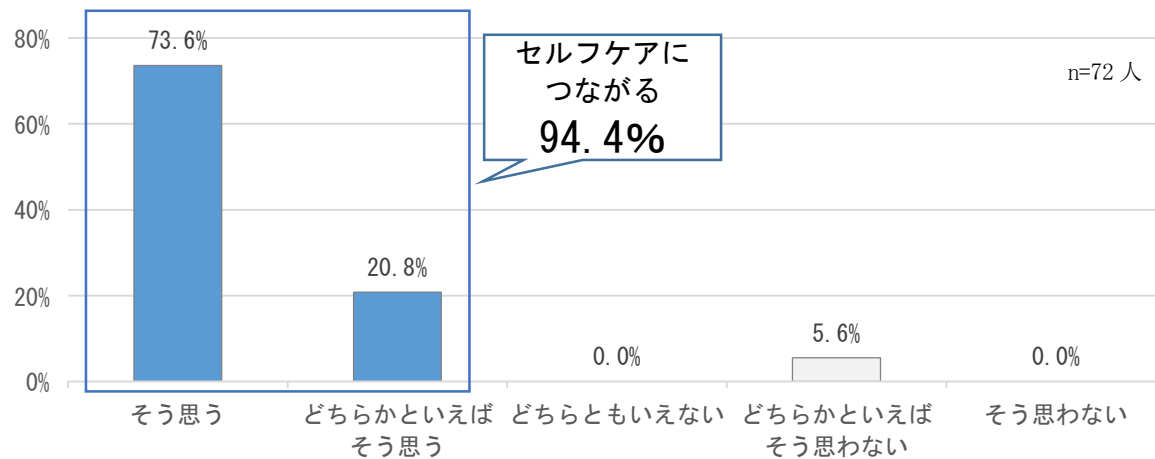


(6) アンケート結果

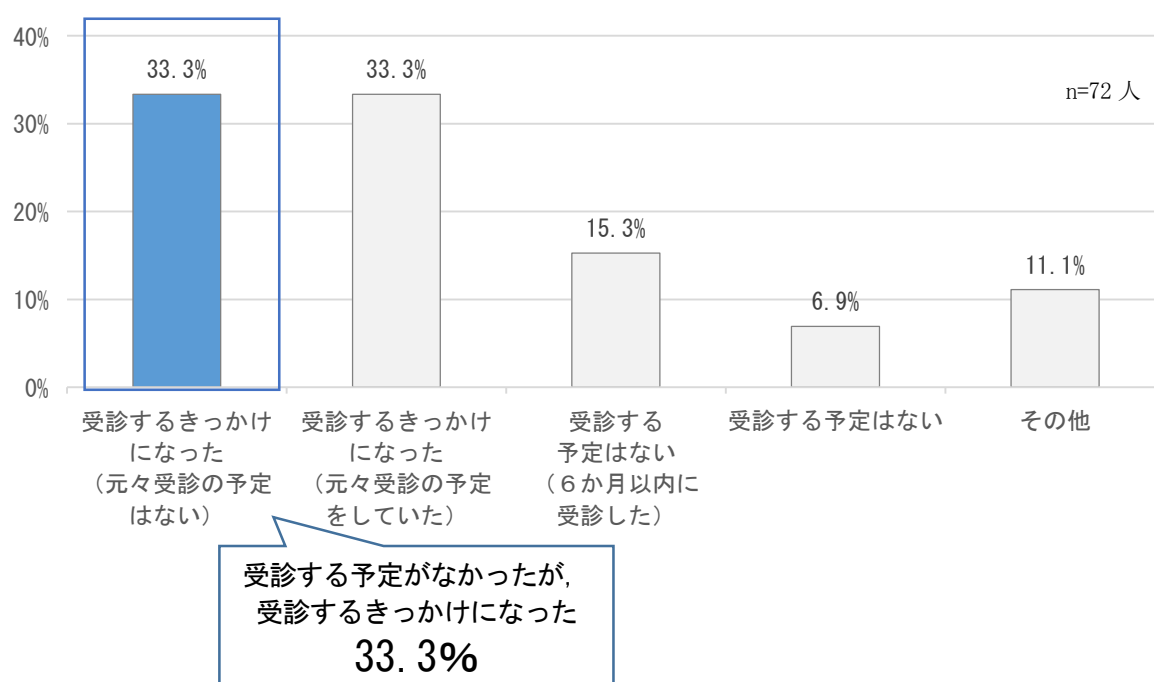
ア 他者勧奨 (家族や友人に薦めたいか)



イ セルフケアの関心や行動 (自宅等で行う自分自身の行動につながると思うか)



ウ 歯科受診へのきっかけ（歯科医院などを受診するきっかけになったか）



(7) 総括

実施目的		考察等
①	需要の有無	茨城県央#Feel Health プロジェクトほどの周知は行っていないものの、常に行列ができるほど盛況であり、アンケートにおいても、周りに薦めたいという声が多く、コンテンツ自体の需要は高いと想定される。
②	継続性について	- アンケートでは、今回の実施がセルフケアにつながるという回答や、歯科受診のきっかけにもなったという回答もあり、A I 歯科健診は当人の行動や行動変容ステージを変化させるきっかけとなると考えられる。 - 今回の健診では、パソコンやカメラなどの機材を借用し、さらに連携企業の職員がその機材を使って対応したが、機材を借りて自治体職員が実施することが可能である。比較的实施が容易である。 - 大きく複雑な機材が必要というわけではないため、他のイベント等でも実施が容易である。

展示会案内状

※ご入場はWEB事前登録が必要です

超高齢社会の介護・医療・予防と、まちづくりのために

参考資料

Care Show Japan 2025

【第17回】高齢者食・介護食の専門展示会&セミナー

メディケアフーズ展

【第5回】超高齢社会の医療を考える

病院・クリニック展

【第11回】豊かな高齢者介護のために

介護・高齢者福祉展

【第6回】次世代薬局の経営・業務を支援する

保険薬局展

【第10回】テクノロジーが創るヘルスケアの未来

ヘルスケアIT

2025年2月26日(水)ー28日(金)

東京ビッグサイト 東1ホール
10:00-17:00

展示会HP



※一般・18歳未満の方のご入場はできません。

超高齢社会の社会課題の解決へ

Care Show Japan は、介護・医療・ヘルステックの5展示会で構成されます。人と情報が集まり、交流する場を提供し、開催を通じて、超高齢社会の介護・医療・ヘルスケア分野における社会課題の解決を目指します。

商談、交流、課題解決に、最新情報に満ちた3日間

各企画や講演プログラムはすべて無料、詳細は本案内状の中面をご覧ください。

高齢者の食と栄養



メディケアフーズ展は高齢者食・介護食の展示会で国内最大、約70社が出展します。管理栄養士の交流会も実施しています。

全60講演が聴講無料



行政施策、施設経営や業務改善、最新事例の紹介など、セミナー60講演はすべて無料で聴講できます(事前申込優先)。

Care Show Japan × KAIGO PRIDE



介護の魅力発信プロジェクト「KAIGO PRIDE」と連携し、アンバサダーサミットやLINK WALK、写真展などを特別開催します。
協力：一般社団法人 KAIGO PRIDE®

嚥下食メニューコンテスト決勝審査会



患者や高齢者に喜ばれる嚥下食メニューレシピの決勝審査会を公開実施します。

主催：一般社団法人日本医療福祉セントラルキッチン協会、嚥下食ドットコム

後援：月刊「臨床栄養」

協力：メディケアフーズ展

協賛：タニコー(株)、伊那食品工業(株)、ナガセヴィータ(株) [旧社名：林原]、フクシマガリレイ(株)、(株)エフ・エム・アイ

JCK 一般社団法人
日本医療福祉セントラルキッチン協会
Healthcare Central Kitchen Association of Japan

嚥下食ドットコム

2月26日 水

第1会場

1-01 10:30～11:10 次世代介護テクノロジー

介護現場における生産性向上の推進について

佐藤 修一(厚生労働省 老健局高齢者支援課 介護業務効率化・生産性向上推進室)



1-02 11:30～12:10 人材確保・人手不足対策

介護人材の確保に向けて(仮題)

吉田 昌司(厚生労働省 社会・援護局福祉基盤課 福祉人材確保対策室 室長)



1-03 12:30～14:00

官民連携で切り拓くヘルスケア産業の未来
～事例から学ぶ連携の成功ポイント～水戸市(茨城県)、伊勢原市(神奈川県)、株式会社ベスプラ、
株式会社官民連携事業研究所、関東信越厚生局、関東経済産業局

1-04 14:30～15:10

The VOiCe of KAIGO
@Care Show Japan 2025
小口 貴幸(一般社団法人KAIGO PRIDE 理事)
KAIGO PRIDE アンバサダーKAIGO
PRIDE

1-05 15:40～16:20

みんなの「安心」した暮らしを「サポート」する未来を
目指して!!

道副 友輔(株式会社イトーヨーカ堂 生活雑貨部 マーチャンダイザー)



第2会場

2-01 10:30～11:10

超高齢社会で求められる
嚥下機能低下に配慮した食事の対応

藤谷 順子(国立国際医療研究センター病院 リハビリテーション科 科長)



2-02 11:30～12:10

新時代の糖尿病を持つ人の食事療法を考える

西村 一弘(駒沢女子大学 人間健康学部 健康栄養学科 教授)



2-03 13:00～13:40

収支改善と人出不足を解消したセントラルキッチン
～病院給食は何のために存在するのか～柴原 健人(一般社団法人日本医療福祉セントラルキッチン協会 常務理事、
社会医療法人駿甲会 MEDICAL FOOD CENTER Swift Turtle Co. COO)

2-04 14:00～14:40

高齢者支援を栄養ケアでつなぐ!新しい地域のかたち

水野 優子(認定栄養ケア・ステーション オレンジよこはま 代表)



2-05 15:00～15:50

UDFを使ったペースト食の新調理法
～加水ゼロ式調理法のメリットと導入事例～久保島 伸雄(社会福祉法人 武蔵野療園
中野区かみさぎ特別養護老人ホーム 管理栄養士、
日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士)徳原 里衣(医療法人社団生和会 周南リハビリテーション病院
栄養科 科長 管理栄養士 NST 専門療法士 在宅訪問管理栄養士)

主催:日本介護食品協議会

2-06 16:10～16:50 人材確保・人手不足対策

介護施設のSNS・YouTube活用術
～採用強化・入居促進のための具体策～

向笠 元(株式会社カイゴメディア 代表取締役)



第3会場

3-01 10:30～11:10

医療情報プラットフォームの創設及び活用事例と
想定されるメリット(仮題)新畑 覚也(厚生労働省 医政局 参事官(特定医薬品開発支援・医療情報担当)付
医療情報室 室長)

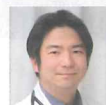
3-02 11:30～12:00

ヘルスケア領域進出に向けた
リサーチデータ・調査結果のご紹介紫竹 宏亮(株式会社インテージヘルスケア マーケティング&パブリックインサイト事業部
ヘルスケアマーケティング部 部長
兼 株式会社インテージホールディングス出向、株式会社インテージ出向)

3-03 13:00～13:45

デジタル医学、医療DXによる予防、医療の最前線

宮田 俊男(早稲田大学理工学術院 教授、医療法人社団DEN 理事長)



3-04 14:05～14:45

地域の医療・介護を支える薬局のあり方とは
～対物から対人へというパラダイムシフト～

狭間 研至(ファルメディコ株式会社 代表取締役社長)



3-05 15:05～15:45

「健康寿命の延びる沿線」実現に向けた取組
PHR・情報共有アプリによる重症化・再発予防

西水 卓矢(阪急阪神ホールディングス株式会社 グループ開発室 事業開発部 部長)



3-06 16:05～16:45 一般社団法人日本保険薬局協会 共催セミナー 認知症予防・ケア

認知症の人と共に生きる地域づくり

土志田 敏伸(薬樹株式会社 薬樹薬局
原町田 ストアマネージャー/管理薬剤師)

第4会場

4-02 11:40～12:00 出展セミナー

認知症予防の重要性と当院での取り組み

木ノ本 景子(ヘテロクリニック 院長)

主催:一般社団法人日本セルフケア研究会



4-04 13:40～14:00 出展セミナー

日常から災害時まで活用できる、
備蓄食品への健康とおいしさのご提案

ナガセヴィータ株式会社(旧社名:林原)

4-05 14:20～15:00 認知症予防・ケア

共に生き、ともに歩もう 認知症
—認知症の人の思い、家族の思い—

大野 教子(公益社団法人認知症の人と家族の会 東京都支部 代表)

丹野 智文(公益社団法人認知症の人と家族の会 理事)

